

令和元年度 第1回軽米町総合教育会議 議事録

1 日時 令和元年5月21日(火) 午後2時30分から

2 会場 軽米町役場 2階第1会議室

3 出席者

(構成員) 山本賢一 町長

菅波俊美 教育長

戸草内勝夫 教育長職務代理者

兼田寿 教育委員

関向玲子 教育委員

田端守 教育委員

(事務局) 堀米豊樹 教育委員会事務局総括次長

大清水一敬 同 生涯学習担当次長

工藤薫 同 教育総務担当次長

関向真介 同 指導主事

(関係者) 高橋広明 軽米小学校校長

及川崇 同 副校長

小田島誠一 小軽米小学校校長

石川和広 同 副校長

八幡美奈子 晴山小学校校長

菅原孝喜 同 副校長

遠藤岳 軽米中学校校長

古里康彦 同 副校長

4 あいさつ〈町長〉

この会議は、町長と教育委員会が連携して町の教育行政に取り組むため、地域の教育課題やあるべき姿を共有し、様々な調整・協議ができるように進めて参りたいと考えている。

協議事項である教育委員会の主催事業と小中学校の運営方針について協議をお願いします。

5 協議事項

(1) 令和元年度軽米町教育委員会の主要事業について

(2) 令和元年度軽米町立小中学校の学校運営方針について

(3) その他

6 協議内容

(1) 令和元年度軽米町教育委員会の主要事業について

①学校教育について説明（担当次長）

②生涯学習について説明（担当次長）

主な質疑

〈町長〉 小中学校児童生徒給食費助成については、早ければ令和2年度で遅くとも令和3年度までには完全無料化を実施したいと考えている。

〈町長〉 いじめの問題はあるか。学力向上支援員と特別支援員を町独自に配置している。いじめについても、教員・支援員を含め学校全体で取り組んで欲しい。

〈教育長〉 「どの子どもにも、どの学校においても起こり得る」ものであると考え、各学校では、早期発見・早期対応を旨とした対応に努めている。また、毎月の校長会議でも取組状況を協議しているが、現在、深刻な状況なものはないと認識している。

また、いじめに関する研修の機会も多く設定しており、いじめに対して学校での認知は高まっており、どの学校も組織としての対応に努めている。

〈委員〉 いじめの内容は、どのようなものが多いか。

→指導主事 言葉によるものや無視、物をかくすなどがほとんどであるが、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）に関するものについては把握や認定が難しいこともあり、特に注意して指導にあたっている。

〈委員〉 小学校の英語教育について、内容が変わり、先生の負担が心配であるがどうか。

→指導主事 2020年度から5・6年は、教科化となるため、担任の先生の指導力向上のための研修を増やしていく方向で進めている。軽米町では、外国人ALTの他に、独自に日本人ALTが授業に入り担任の支援を行っており、担任と共に授業を行うなど工夫しながら進めている。

〈委員〉 来年度に向けて、地域からボランティアを募ってはどうか。授業の支援までいかなくても手伝ってもらうことはたくさんあると思う。

〈教育長〉 児童の安全確保や、ふるさとや地域に関わる体験学習などに、地域の皆様からご協力を頂いて進めており、大変効果をあげている。

英語学習については、難しい面もあるが参考としたい。

〈町長〉 2020年度からの小学校の英語は、今まで中学校で学習していた英語を小学校で学習するということか。

→指導主事 目標は、「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成」であるが、中学校の内容や指導法のまま小学校でやるのではなく、小学校の丁寧な指導の良さを生かし、音や文字に慣れさせる等、基礎基本を学習するものである。

(2) 令和元年度軽米町立小中学校の学校運営方針について

〔設定時間 各校 30分〕

① 軽米小学校学校運営方針説明〔軽米小学校校長・副校長〕

主な質疑

〈委員〉 いじめの指導に関して、特に家庭への対応で留意していることは何か。また、いじめは複雑化しているので、先生方の対応も難しいと思うが、どうか。

→校長 保護者には、早い段階から十分説明をして、状況を把握していただくことを大切にしている。また、いじめの認知は規定に基づいて行い、複数の教員や組織で対応することを原則として様々な視点から指導にあたっている。あわせて、職員会議や研修会等で話し合い、職員間で情報を共有し、常に状況を把握すると共に保護者との連絡を密にするなどして、対応にあたっている。

〈町長〉 学力向上に関しては、底上げが必要であり、家庭学習が大事であるが、どうか。

→校長 家庭学習は、音読、プリント、自学ノート等の取組を中心に行っており、学年プラス10分で6年生は70分の家庭学習時間を目標として進めている。底上げという点では、情報の読み取りの力が必要であり、国語の力をつけることに取り組んでいる。

② 小軽米小学校学校運営方針説明〔小軽米小学校校長・副校長〕

主な質疑

- 〈町長〉 郷土芸能の伝承等の活動は継続して行い、保育園・小学校・中学校で連携し、モデルケースになるように進めてほしい。
- 校長 保存会の方々にご協力を頂いて、学習発表会や町のイベント等で発表している。地域の宝として、今後も学校の教育活動に位置づけ、継続して取り組んでいきたい。
- 〈委員〉 家庭学習で、子どもの意欲的な学習に向けて、課題だけでなく自主的な学習につなげる取組は行っているか。
- 校長 その日学んだ内容の復習や課題などのドリル勉強の他に、ひとり勉強として、その児童なりに必要な予習的内容も含めた家庭学習への取組も指導している。

③ 晴山小学校学校運営方針説明〔晴山小学校校長・副校長〕

主な質疑

- 〈町長〉 4月に晴山小学校長に赴任して感じたことは何か。
- 校長 素直な子ども達で、思いやりあふれる学校と感じている。1人1人をさらに伸ばしていくための手立てをとり、学力向上と心の繋がりを2本柱に学校を運営していきたいと考えている。
- 〈町長〉 教師の授業力向上は、具体的にはどのようにしていくのか。
- 校長 算数科を中心に予習を生かし、教えて考えさせる授業を推進しており、計画的に1人1研究授業とし指導主事を招聘し、わかる授業に取り組んでいる。
- 〈町長〉 郷土を愛する心についても、継続をしてほしい。
- 校長 授業で取り上げており、また、今年度は初めて運動会でも山内神楽と力太鼓を取り入れ、発表する予定である。
- 〈委員〉 道徳が新しく教科となったが、指導内容が変わるのか。
- 校長 授業の中身は大きく変わらないが、考えることが大事であり、評価も行うこととなっている。指導主事の指導のもと、指導方法や評価などについて、校内で十分協議しながら推進していきたい。

④ 軽米中学校学校運営方針説明〔軽米中学校校長・副校長〕

主な質疑

- 〈町長〉 英語検定、漢字能力検定への助成の効果は出ているか。
- 校長 英語検定も漢字能力検定も助成があることにより、全員が最低年

1回は受験できることから、意欲的に取り組んでいる。特に英検は、英語の楽しさを味わいながらチャレンジする生徒が増えており、検定結果も卒業時に3級合格者が50%を超すなど非常に成果が出ている。

〈町長〉 小学校では郷土芸能を取り上げているが、中学校ではどのように進めているか。郷土芸能等への取組は地域との連携に非常に効果がある。

→校長 文化祭において、輪番で各地区の郷土芸能を、保存会等のご協力のもと発表する機会を設定している。また、軽米について語れる生徒を育てようということで、総合学習で軽米高校と連携して「軽米学」を行っているが、その中でも郷土芸能にも取り組んでいる。

(3) その他

○閉 会 (17時)